

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530228

研究課題名(和文) インドの小地域住民全数データを参照基準とした途上国地方統計制度の研究

研究課題名(英文) A Study of Rural Statistical System in the Developing World, Using Census Type Data on Small Areas in Rural India as a Point of Reference

研究代表者

岡部 純一 (Okabe, Jun-ichi)

横浜国立大学・国際社会科学研究院・教授

研究者番号：70204013

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：科研費前研究プロジェクト(2009-2011年度)「インドの小地域住民全数データを参照基準にした途上国センサス・行政データの研究」をベースに、インド地方統計の統計需要構造、統計制度の現状、その発達可能性についてまとめた。英文著：A New Statistical Domain in India: An Enquiry into Gram Panchayat-Level Data basesの草稿を新たに発表し、内外の広範な統計家と議論した。

研究成果の概要(英文)：On the basis of the previous project (2009-2011) on 'A Study of Census and Administrative Records in the Developing World, Using Census Type Data on Small Areas in Rural India as a Point of Reference,' this study has prepared the manuscript for a forthcoming book: A New Statistical Domain in India: An Enquiry into Gram Panchayat-Level Databases. The manuscript describes needs, current status and potentials of statistical system in rural India for the purpose of an extensive debate with eminent statisticians.

研究分野：経済統計学

キーワード：統計制度 インド

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 現代の統計品質論は、統計データのクオリティーを支える統計制度全体を問題にしている。最近、インド統計評議会(2000年設立)は独立後インドの統計制度の歴史を総括し、インド統計制度の課題を内部告発に近い鋭さで浮き彫りにした。同評議会は、統計制度の機能不全を、単なる状況証拠によってではなく、同一対象に関する異なる諸統計の不照合によって数値による検証を行った点で画期的であった。検証の結果、インドでは州政府レベル以下の末端の統計収集システムが十分機能していないこと、そのため、センサスデータや行政記録、及びそれを基礎に構成された標本フレームのクオリティーに問題があることが判明した。

(2) しかしながら、インド統計評議会の検証は国家・州レベルのマクロな集計値同士の照合であって、マクロレベルの不照合が何を意味するかについて、統計制度末端地域の具体的な状況に光を当てて検証するものではなかった。たしかに、インドにはすでに全国レベルの優れた標本調査が確立しているため、それらをマクロレベルの比較基準とすることは可能である。だが、そうした標本調査は小地域の分析には不向きであるため統計制度末端のミクロな状況を扱いにくい。近年は小地域推計技術も開発されているが、推計に必要な最小限のセンサスデータや行政記録などの政府基礎データの有効性はほとんど検証されていない。ところが、インドは90年代以降、州レベル以下の地方自治体(panchayat)への行政権限の委譲が急速に進行しているため、末端自治体における統計制度の構築が焦眉の課題となっている。それにも関わらず、これまで、統計制度末端の実態を、データ収集の末端フィールドから定量的・分析的に究明する試みはほとんどない。その最大の障壁は、統計制度末端の政府基礎データをミクロレベルで照合する比較基準として使用に堪える優れた全数調査データの入手がむずかしいことである。

(3) そこで、本研究プロジェクト参加者は2009-2011年度科学研究費基盤研究(C)(一般)「インドの小地域住民全数データを照合基準にした途上国センサス・行政データの研究」によって民間学術団体「農村研究財団(Foundation of Agrarian Studies-以下、FAS)」の小地域住民全数データベースを比較基準として、統計制度末端の小地域住民に関するセンサスデータや行政記録を一件一件ミクロレベルで照合し、不照合の原因を究明した。FAS(理事長V. K. Ramachandran イ

ンド統計研究所教授-本研究プロジェクトの海外共同研究者)は、インド各地の大学・研究機関の農村研究者達が、インド最大の農民団体「全インド農民会議(All India Kisan Sabha)」の支援を得て2003年に設立した研究財団である。FASは、インド各地から有意抽出した典型村落内の全世帯・全住民に関する詳細なデータベースを作成し、農村の社会経済変動を研究するプロジェクトを進めている。上述の2009-2011年度基盤研究ではこのデータベース(以下「FASデータベース」と略す)が村落データを検証する比較基準として十分精度が高いことが確認できた。検証の結果、インド地方統計制度の問題点と可能性が把握された。

### 2. 研究の目的

(1) 前述の通り、地方分権化のために末端自治体の地方統計制度の構築がインドの焦眉の課題であることから、地方統計制度の改革についてFASと共同提言を行ない、議論を喚起することが本研究の目的である。

(2) そのためには、2009-2011年度基盤研究の研究成果の不十分な点を補って研究を高度化させ、地方分権化のなかで途上国地方統計制度に期待される新たな統計需要について、既存の政府基礎データの単なる実態把握をするだけでなく、社会制度全般を視野におさめて総合的に研究する英文著書の刊行を用意する必要がある。インド国民向け英文著書: *A New Statistical Domain in India: An Enquiry into Gram Panchayat-Level Databases* の草稿を発表し、内外の広範な統計家と議論することが本研究プロジェクトの目的である。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究プロジェクトは、地方分権化の下での地方統計制度の統計需要を総合的に研究した。具体的には、FASとの共同研究によって、地方自治体(panchayat)統計制度に関する統計需要(住民自治・自治体財政・地域計画のための基礎統計への情報ニーズ)の全体像を把握し、その実態について全面的に著書をまとめる段階に入った(全体の草稿が完成)。

(2) この著書は、インド国内の主な研究文献・公的資料を丹念にフォローし、それを前提に組み立てた。だが、このような総合的な研究はインド国内では珍しいため、インドにおける研究水準を一定程度上回る内容にま

とまった。

(3) インドを中心に、途上国と先進国の地方分権化政策と地方統計制度に関する文献・資料リストを作成し、その研究成果の一部を公表することができた。

(4) FAS の研究者・V. Rawal 氏 (Jawaharlal Nehru 大学) が 2012 年 9-12 月に一橋大学経済研究所に来日した機会を利用してインド農村雇用政策: Mahatma Gandhi National Rural Employment Guarantee Scheme の村落データの実態と利用可能性について集中的に議論した。

(5) 地方統計制度のなかで重要な位置を占める農業統計について FAS と共同研究の成果の一部を 2013 年 10 月の地域農林経済学会で共同発表して、日本の研究者と議論した。

(6) FAS 理事長・V. K. Ramachandran (インド統計研究所) が、2013 年 8 月-11 月に横浜国立大学に招聘された機会を利用して、英文著書の内容について詳細な議論をした。

(7) 2013 年 11 月にインド全国セミナー: All India Seminar on Statistical Databases in Gram Panchayats が、この英文著書の草稿について議論する目的で、インド統計研究所によってバンガロールで開催された<<http://www.agrarianstudies.org/pages.asp?menuid=43>>。このセミナーには、インド計画委員会委員・Jawaharlal Nehru 大学教授である Abhijit Sen 氏や、インド初代 Chief Statistician(2007-2010) で現 National Statistical Commission 議長である Pronab Sen 氏をはじめ、著名なインド統計家が多数参加し、英文著書を改善するための有意義な議論が可能となった。

(8) このセミナーの成果を 2014 年 1 月にインド・コーチンで開催された国際学会の招待講演で発表する機会を得て<<http://www.agrarianstudies.org/pages.asp?menuid=52>>、インド以外の途上国統計家に公開した。

(9) 2014 年 6 月に西ベンガル州 Panahar 村を追加調査した。

(10) 2014 年 8 月にバンガロールにて V. K. Ramachandran と、2015 年 1 月にムンバイにて Aparajita Bakshi 及び Niladri S. Dhar (共に Tata Institute of Social Sciences 所属) と英文原稿の最終チェックをした。

#### 4 . 研究成果

(1) 前述のインド全国セミナー: All India Seminar on Statistical Databases in Gram Panchayats (2013 年 11 月)は、まさにこの英文著書について議論することを目的に、インド統計研究所が全国に呼びかけて開催したものであり、単にこの著書の内容向上のためだけでなく、本研究のデモンストレーションと議論喚起のためにインド国内で相当インパクトがあったと言わざるをえない。このセミナーの様子は、2013 年 11 月 8 日にインドの全国紙 The Hindu で報道され、読者からコメントも寄稿された。

<<http://www.thehindu.com/business/Economy/the-data-challenge-at-the-gram-panchayat-level/article5329852.ece>>

(2) そして、この英文著書は、すでに脱稿し、インドの出版社(Tulika 出版)から近刊の運びとなっている。

(3) 今後の展望として、インド以外の、途上国と先進国の地方分権化政策と地方統計制度に関する研究がまだ十分とは言えないので、そこを補完して、改訂版か追録を準備する予定である。

#### 5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8 件)

Jun-ichi Okabe, A Note on New Statistical Domain in Rural India (1): An Enquiry into Gram Panchayat-level Databases, CESSA Working Paper (Center for Economic and Social Studies in Asia, Department of Economics, Yokohama National University), 査読無, CESSA WP2014-05, pp.1-48, 2014. <<http://www.econ.ynu.ac.jp/cessa/publication/workingpaper.html>>

Jun-ichi Okabe, A Note on New Statistical Domain in Rural India (2): An Enquiry into Gram Panchayat-level Databases, CESSA Working Paper (Center for Economic and Social Studies in Asia, Department of Economics, Yokohama National University), 査読無, CESSA WP 2014-06, pp.1-62, 2014.

Jun-ichi Okabe, A Note on New Statistical Domain in Rural India (3): An Enquiry into Gram Panchayat-level Databases, CESSA Working Paper (Center for Economic and Social Studies in Asia, Department of Economics, Yokohama National University), 査読無, CESSA WP

2014-07, pp.1-52, 2014.

Jun-ichi Okabe, A Note on New Statistical Domain in Rural India (4): An Enquiry into Gram Panchayat-level Databases, CESSA Working Paper (Center for Economic and Social Studies in Asia, Department of Economics, Yokohama National University), 査読無, CESSA WP 2014-08, pp.1-103, 2014.

Jun-ichi Okabe and Aparajita Bakshi, A New Statistical Domain in India: An Enquiry into Gram Panchayat-level Databases, Review of Agrarian Studies (Foundation for Agrarian Studies), 査読有, Vol. 3, No. 2, pp.14-53, 2014. <<http://www.ras.org.in>>

Jun-ichi Okabe and V. Surjit, Village-level Birth Records: A Case Study, Review of Agrarian Studies (Foundation for Agrarian Studies), 査読有, Vol. 2, No. 1, pp.71-86, 2012.

岡部 純一, 「2008SNA における Non-Observed Economy」, CESSA Working Paper (Center for Economic and Social Studies in Asia, Department of Economics, Yokohama National University), 査読無, CESSA WP 2012-01, pp.1-60, 2012.

Yoshifumi Usami and Vikas Rawal, Some Aspects of the Implementation of India's Employment Guarantee, Review of Agrarian Studies (Foundation for Agrarian Studies), 査読有, Vol. 2, No. 2, pp.74-105, 2012. <<http://www.ras.org.in>>

〔学会発表〕(計 5 件)

岡部純一, 「インドにおける基礎自治体の統計需要構造について」, 経済統計学会全国研究大会, 京都大学, 2014 年 9 月 12 日.

Jun-ichi Okabe, 'A New Statistical Domain in India: An Enquiry into Gram-Panchayat-Level Databases' (招待講演), at the Tenth Anniversary Conference on Agrarian Issues held by Foundation for Agrarian Studies in Kochi on January 12, 2014. <<http://www.agrarianstudies.org/pages.asp?menuid=52>>

Usami Yoshifumi, 'An Examination of the Recent Reported Rise in Agricultural Wages in India' (招待講演), at the Tenth Anniversary Conference on Agrarian Issues held by Foundation for Agrarian Studies in Kochi on January 10, 2014. <<http://www.agrarianstudies.org/pages.asp?menuid=52>>

Jun-ichi Okabe with Aparajita Bakshi, 'On the Manuscript titled "A New Statistical Domain in India: An Enquiry

into Gram Panchayat-Level Databases" ' (招待講演) at the All India Seminar on Statistical Databases in Gram Panchayats held at Economic Analysis Unit, Indian Statistical Institute in Bangalore on November 7, 2013. <<http://www.agrarianstudies.org/pages.asp?menuid=43>>

Biplab Sarkar and Kaneko Jihei, Input Use and Cost of Cultivation of Rice in India, 第 63 回地域農林経済学会, 岡山大学, 2013 年 10 月 19 日.

〔図書〕(計 2 件)

宇佐美好文, 「労働力移動と農村社会」, 柳澤悠・水島司編『激動のインド第 4 巻: 農業と農村』(日本経済評論社), 339-371 頁, 2014.

宇佐美好文, 「センサス期 (1881 ~ 2011 年) の人口変動」, 水島司・川島博之編『激動のインド第 2 巻: 環境と開発』(日本経済評論社), 57-90 頁, 2014.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

岡部 純一 (OKABE JUN-ICHI)  
横浜国立大学・大学院国際社会科学研究所・教授  
研究者番号: 70204013

### (2) 研究分担者

金子 治平 (KANEKO JIHEI)  
神戸大学・大学院農学研究科・教授  
研究者番号: 40204557

### (3) 連携研究者

宇佐美 好文 (USAMI YOSHIFUMI)  
東京大学・人文社会系研究科・次世代  
人文学開発センター客員研究員  
研究者番号: 40081559